

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年2月10日
【四半期会計期間】	第69期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	スガイ化学工業株式会社
【英訳名】	SUGAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 武田 晴夫
【本店の所在の場所】	和歌山県和歌山市宇須四丁目4番6号
【電話番号】	和歌山 073(422)1171(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 山辺 賢
【最寄りの連絡場所】	和歌山県和歌山市宇須四丁目4番6号
【電話番号】	和歌山 073(422)1171(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 山辺 賢
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第3四半期 累計期間	第69期 第3四半期 累計期間	第68期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	4,030,678	3,451,894	5,503,306
経常利益 (千円)	179,652	93,282	220,266
四半期(当期)純利益 (千円)	203,628	72,206	230,632
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	2,510,000	2,510,000	2,510,000
発行済株式総数 (千株)	1,373	1,373	1,373
純資産額 (千円)	5,722,163	5,708,965	5,777,657
総資産額 (千円)	9,662,805	9,687,112	9,689,497
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	148.66	52.72	168.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	30.00
自己資本比率 (%)	59.2	58.9	59.6

回次	第68期 第3四半期 会計期間	第69期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	121.60	64.91

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 5 当社は2018年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第68期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(財政状態の分析)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ2百万円減少の9,687百万円となりました。これは主に、商品及び製品は597百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が313百万円、現金及び預金が272百万円減少したことなどによるものです。

負債につきましては、前事業年度末に比べ66百万円増加の3,978百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金は62百万円減少しましたが、借入金が115百万円増加したことによるものです。

また、純資産は前事業年度末に比べ68百万円減少の5,708百万円となり、自己資本比率は58.9%（前事業年度末59.6%）となりました。

(経営成績の分析)

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業業績や雇用環境の改善により引き続き緩やかな回復基調が続いているものの、消費税増税、米中貿易摩擦による中国経済の減速、英国のEU離脱問題の先延ばし、日韓関係の悪化、中東情勢の不安定化等、依然、不透明な状況となっております。

このような状況の中で、国内売上高は、2,760百万円と前年同期（3,140百万円）に比べ380百万円（12.1%）の減収となりました。これは、農薬用中間物は増加したものの、医薬用中間物が大幅に減少、機能性用中間物及び界面活性剤も減少したためです。

一方、輸出売上高は、691百万円と前年同期（890百万円）に比べ198百万円（22.3%）の減収となりました。これは、医薬用中間物が大幅に減少、農薬用中間物も減少したためです。

この結果、売上高は3,451百万円となり、前年同期（4,030百万円）に比べ578百万円（14.4%）の減収となりました。また、輸出比率は20.0%（前年同期22.1%）となりました。

利益につきましては、売上高の減収、固定費の増加、為替の円高による影響、燃料価格の上昇等により、営業利益は79百万円（前年同期166百万円）となりました。営業外収益では受取配当金31百万円を計上したこともあり、経常利益は93百万円（前年同期179百万円）、特別損失で投資有価証券評価損16百万円を計上したこともあり、四半期純利益は72百万円（前年同期203百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題については、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発費の総額は162百万円です。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産及び販売の実績

当第3四半期累計期間における、生産及び販売実績は、下記のとおりであります。

なお、当社の事業は、有機化学合成に基づく中間物の製造、販売、研究及びサービス等を行う単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりませんので、「生産及び販売の実績」については製品の種類別ごとに記載しております。

生産実績

区分	生産高(千円)		前年同四半期比(%)
	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	
医薬用中間物	865,337	884,700	+2.2
農薬用中間物	2,107,559	2,148,180	+1.9
機能性用中間物	556,949	511,854	8.1
その他用中間物	88,028	59,473	32.4
界面活性剤	351,877	339,772	3.4
合計	3,969,752	3,943,981	0.6

(注) 金額は、販売価格(消費税等抜き)によっております。

販売実績

区分	販売高(千円)		前年同四半期比(%)
	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	
医薬用中間物	1,169,757	690,294	41.0
農薬用中間物	1,908,688	1,924,741	+0.8
機能性用中間物	516,005	420,656	18.5
その他用中間物	102,428	107,497	+4.9
界面活性剤	316,337	271,150	14.3
その他	17,461	37,555	+115.1
合計	4,030,678	3,451,894	14.4

(注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。

2 主な輸出先、輸出版売高の増減は、次のとおりであります。

輸出先	輸出版売高(千円)		前年同四半期比(%)
	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	
北米	335,708	390,143	+16.2
欧州	524,779	278,401	46.9
アジア他	29,926	23,324	22.1
合計	890,415	691,870	22.3

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、新たに決定または締結した経営上の重要な契約等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,373,000	1,373,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	1,373,000	1,373,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	1,373,000	-	2,510,000	-	2,016,543

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である2019年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,300	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,364,700	13,647	同上
単元未満株式	普通株式 5,000	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	1,373,000	-	-
総株主の議決権	-	13,647	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) スガイ化学工業株式会社	和歌山県和歌山市宇須 四丁目4番6号	3,300	-	3,300	0.24
計	-	3,300	-	3,300	0.24

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(千株)	就任年月日
取締役 (監査等委員)	内川 真由美	1976年4月30日生	2008年12月 弁護士登録 和歌山弁護士会 2008年12月 パークアベニュー法律事務所入所 2019年12月 当社一時取締役就任	(注)2	-	2019年12月26日

(注) 1 取締役(監査等委員である社外取締役)谷口昇二氏逝去により、当社は監査等委員である取締役の法定定員を欠くこととなったため、和歌山地方裁判所に一時取締役(監査等委員である取締役の職務を行うべき者)の選任の申立てを行い、2019年12月26日付で同裁判所から申立てを認める旨の決定通知を受け、同日をもって一時取締役(監査等委員である取締役の職務を行うべき者)として内川真由美氏(社外取締役)が就任いたしました。

2 一時取締役(監査等委員である取締役の職務を行うべき者)の任期は、2020年6月開催予定の当社第69回定時株主総会において監査等委員である取締役が選任されるまでの期間となります。

(2) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役(監査等委員)	谷口 昇二	2019年12月9日

(3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性 6名 女性 1名(役員のうち女性の比率14.3%)

第4【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.3%
売上高基準	0.7%
利益基準	5.9%
利益剰余金基準	0.2%

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	836,640	564,312
受取手形及び売掛金	1,538,447	1,225,213
商品及び製品	1,409,534	2,006,760
仕掛品	98,990	129,608
原材料及び貯蔵品	293,641	294,469
その他	16,432	63,647
貸倒引当金	4,626	3,692
流動資産合計	4,189,059	4,280,318
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	692,691	671,836
機械及び装置(純額)	963,368	974,458
土地	1,328,624	1,328,624
その他(純額)	536,622	640,664
有形固定資産合計	3,521,307	3,615,584
無形固定資産		
投資その他の資産	5,817	5,817
投資有価証券	1,887,502	1,711,193
関係会社株式	3,819	3,819
その他	96,169	84,556
貸倒引当金	14,177	14,177
投資その他の資産合計	1,973,313	1,785,391
固定資産合計	5,500,438	5,406,793
資産合計	9,689,497	9,687,112
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	706,832	644,757
短期借入金	900,000	1,100,000
1年内返済予定の長期借入金	360,126	290,452
未払法人税等	47,150	10,625
賞与引当金	71,969	25,114
その他	423,932	599,997
流動負債合計	2,510,011	2,670,946
固定負債		
長期借入金	561,464	546,765
退職給付引当金	381,722	397,445
その他	458,643	362,990
固定負債合計	1,401,829	1,307,201
負債合計	3,911,840	3,978,147

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,510,000	2,510,000
資本剰余金	2,016,543	2,016,543
利益剰余金	483,872	514,988
自己株式	5,208	5,232
株主資本合計	5,005,207	5,036,299
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	772,449	672,666
評価・換算差額等合計	772,449	672,666
純資産合計	5,777,657	5,708,965
負債純資産合計	9,689,497	9,687,112

(2)【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,030,678	3,451,894
売上原価	3,296,364	2,788,494
売上総利益	734,313	663,399
販売費及び一般管理費		
発送運賃	26,854	23,123
従業員給料及び手当	233,017	243,915
賞与引当金繰入額	7,786	8,335
退職給付費用	13,726	13,188
その他	286,399	295,672
販売費及び一般管理費合計	567,785	584,235
営業利益	166,527	79,163
営業外収益		
受取利息	73	113
受取配当金	29,832	31,882
為替差益	7,989	6,701
その他	6,119	3,784
営業外収益合計	44,015	42,482
営業外費用		
支払利息	8,266	6,799
休止固定資産維持費用	13,737	13,120
その他	8,887	8,443
営業外費用合計	30,891	28,363
経常利益	179,652	93,282
特別利益		
受取保険金	55,095	15,246
特別利益合計	55,095	15,246
特別損失		
固定資産除却損	10,883	19,075
投資有価証券評価損	-	16,403
特別損失合計	10,883	35,479
税引前四半期純利益	223,864	73,049
法人税、住民税及び事業税	20,903	5,547
法人税等還付税額	-	4,866
法人税等調整額	668	162
法人税等合計	20,235	843
四半期純利益	203,628	72,206

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	11,204千円	347千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)の償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	277,780千円	289,008千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	41,091	30	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

当社の事業は、有機化学合成に基づく中間物の製造、販売、研究及びサービス等を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

		前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	(円)	148.66	52.72
(算定上の基礎)			
四半期純利益	(千円)	203,628	72,206
普通株主に帰属しない金額	(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益	(千円)	203,628	72,206
普通株式の期中平均株式数	(千株)	1,369	1,369

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は2018年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

スガイ化学工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 幡 琢 哉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 井 孝 晃 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているスガイ化学工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第69期事業年度の第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、スガイ化学工業株式会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。